

Title	がん患者と配偶者の二者間におけるサポート研究の動向と今後の展望
Author(s)	塩崎, 麻里子
Citation	生老病死の行動科学. 11 P.85-P.93
Issue Date	2006
Text Version	publisher
URL	https://doi.org/10.18910/6875
DOI	10.18910/6875
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

がん患者と配偶者の二者間におけるサポート研究の動向と 今後の展望

A review of social support among cancer patients and their spouses and future prospects

(大阪大学大学院人間科学研究科 日本学術振興会) 塩崎 麻里子

Abstract

In social support studies for a cancer patient, the effect of relationship with other person for a cancer patient has been examined by two approaches mainly. One approach was the examination of support perceived from the whole personal relationships, and the other was the examination of support perceived from specific dyad relationship. In this article, studies focusing on support in dyad relationship, particularly spousal relationship, were reviewed. Then, future prospects of study about support among cancer patients and their spouses are discussed.

Key word : cancer patient, spouse, dyad relationship, social support

1. はじめに

ソーシャルサポート (social support) とは、一般的には「他者から提供される有形・無形の援助」と定義され、多くの人から多種類のサポートを得ている人は、ストレスフルな出来事を経験しても、あまりストレスを感じず、実際にうまくその出来事に対処できるため、より健康的であると考えられている (深田, 2002)。それは、日常的で些細な出来事だけでなく、がんなどの生命を脅かす疾患に罹患するといった重大な出来事に関しても、同様であることが示されている。がん患者に対するソーシャルサポート研究では、主に2つのアプローチで他者との関係性のがん患者に及ぼす影響が検討されてきた。ひとつは、対人関係全体から得るひとまとまりのサポートであり、もうひとつは特定の二者関係から得られるサポートである。全般的な他者からのサポートと特定の二者関係におけるサポートは、関連はするものの基本的に区別され、それぞれ独自の影響力を持つと言われている (Pierce, Serason, & Serason, 1992)。

がん患者に対する全般的な他者からのサポートを扱った研究では、サポートの構造的側面 (人数や密度など) と機能的側面 (サポート内容やサポート満足感) のそれぞれが、患者の心理的適応に及ぼす影響を検討している。サポートの構造的側面に関しては、いざとなったら頼りになる親しい他者の人数であるサポートネットワークサイズ (Hann, Baker, Denniston, Gesme, Reding, Flynn, Kennedy, & Kieleyka, 2002) や悩み事に関して話のできる人数 (Northouse, 1988) が多いことと、患者の心理的適応が関連していることが示されている。また、機能的側面に関しては、周囲から受けている情緒的サポートの頻度に関する患者の認知や、周囲から受けているサポートに対する満足感 (Hann, Winter, & Jacobson, 1999) が、患者の心理的適応に良い影響を及ぼすことが報告されている。これらの結果から、患者の心理的適応を促進させる1つの方法として、多くの人からたくさんの満足できるサポートを受けることのできるサポート環境を整えることが重要と言える。

一方、特定の二者関係におけるサポートを扱った研究では、主に配偶者からの患者へのサポートが扱われており、配偶者から得られる適切なサポートは、他の人からのサポートでは代替できないという結果が得られており (Pistrang & Barker, 1995)、がん患者にとって配偶者との二者関係を特に取り上げて検討する必要が強調されている。そこで本論では、がん患者と配偶者という特定の二者関係において得られるサポートに関する研究を概観する。なお、それらを踏まえた上で、今後のがん患者における特定の二者関係を扱うサポート研究の課題について述べる。なお、日本におけるがん患者と配偶者の二者間におけるソーシャルサポート研究は、がん患者によって知覚されたサポートに関する面接調査 (宮下, 2004) や臨床報告がほとんどであるため、欧米で報告された研究を中心に概観した。

2. がん患者と配偶者の二者関係におけるサポート研究

がん患者の心理的適応には、配偶者とのサポート関係に対する満足感が強い関連を示すことが知られており (Manne, Pape, & Fang, 1998)、診断から長期療養生活に至るすべての過程において、配偶者との関係は重要であることが強調されている (Manne, Taylor, Dougherty, & Kemeny, 1997; Primomo, Yates, & Woods, 1990)。

二者関係のサポート研究における初期の関心事は、配偶者のどのような行為が患者にとって有益なサポートと認知されているかという点についてであり、面接法を用いた調査が行われた。最も有名な研究の1つである Dakof & Taylor (1990) の研究によって、配偶者の「ただそばにいただけ」、「関心、共感、あるいは愛情を示す」、「患者ががんであることを静かに受け入れる」、「実用的な援助をする」、「病気の見通しやがんとうまく折り合っていることについて楽観的になる」といった行為を患者はサポートとなると評価しているという詳細な知見が示された。また、配偶者などインフォーマルな間柄と、医療従事者などフォーマルな間柄では、サポートと評価される行為が異なることが示された (Dakof & Taylor, 1990; Smith, Redman, Burns, & Sagert, 1985)。

次に多くの研究者の関心を集めたのは、配偶者のサポートががん患者の心理的適応や身体的状態に及ぼす影響についてであり、これががん患者と配偶者の二者関係を扱ったソーシャルサポート研究の主流となった。その結果多くの研究によって、配偶者はがん患者にとって情緒的サポートの主たる担い手であり (Pistrang & Barker, 1995; Neuling & Winefield, 1988)、配偶者から十分な情緒的サポートを得られている患者は、抑うつが低く (Hann et al., 1999)、心理的適応が良い (Bloom, Stewart, Johnston, Banks, & Fobair, 2001; Northouse, Dorris, & Charron, 1995a) ことが示されてきた。また、身体的側面への影響については、配偶者から質の高いサポートが得られている乳がん患者は、免疫に重要な役割を果たすナチュラルキラー細胞が活性化されているという結果 (Levy, Herberman, Whiteside, Sanzo, Lee, & Kirkwood, 1990) や、身体的問題が少ないという結果 (Brady & Helgeson, 1999) が報告されている。さらに、乳がん患者が配偶者からのサポートに対して満足していることは、患者の後の情緒的適応を予測することも示されている (Hoskins, 1995; Hoskins, Baker, Sherman, & Bohlander, 1996)。同様に、配偶者からのサポートは、患者の QOL (Ashing, 1999) や心理的ディストレス (Alferi, Carver, Antoni, Weiss, & Duran, 2001) も予測することが示され、患者にとって配偶者との関係は、告知時や手術時などの急性期のストレスに対処していく段階だけでなく、治療終了後の生活に適応していく段階においても、重要となることが強調されてきた。

これまで紹介してきた研究は、患者を研究対象とし、配偶者からのサポートに対する認知が患者の心理的適応にどのような影響を及ぼすのかを検討したものである。それに対して、がん患者と配偶者という二者間の実際の相互作用を対象とし、患者の心理的適応との関連を検討している研究も行われている。その研究方法は、夫婦に対する面接 (Northouse et al., 2000; Baider & De-Nour, 1999) や、夫婦における会話場面のビデオを用いた行動分析 (Manne, Sherman, Ross, Ostroff, Heyman, & Fox, 2004b)、質問紙 (Manne, Audrain, Schwartz, Main, Finch, & Lerman, 2004a; Ybema, Kuijer, Buunk, DeJong, & Sanderman, 2001)、夫婦セラピーによる介入の効果検討 (Key, Marsh, Carter, Malcolm, & Sinha, 2004; Wakefield, Olver, Whitford, & Rosenfeld, 2004) など多岐にわたる。その結果、配偶者が患者とがんに関する話をするのを避けないこと (Manne et al., 2004a) や、自己の感情について開示的であること (Manne et al., 2004b)、問題を解決することを目的とした提案を行うこと (Manne et al., 2004b) などが、患者の心理的ディストレスを低減させ、患者の自己開示を促すことが示された。これらの研究では、患者と配偶者の夫婦関係を、サポートの受け手と与え手という一方向の関係として扱っているのではなく、両者が共にサポートの受け手と与え手であるという双方向的な関係として扱っている点が特徴的である。

また別のアプローチとして、双方向的な二者関係における相互作用に対する認知と心理的適応の関連を検討した研究もなされている。そして、患者は自分が与えるサポートよりも配偶者から得ているサポートが多いと判断する過小利得状態である場合、罪悪感や抑うつが強く (Hegtvedt, 1990)、反対に、配偶者から得ているサポートよりも与えているサポートが多いと判断する過大利得状態である場合に、怒りや負債感が強いこと (Hegtvedt, 1990; Ybema et al., 2001)、配偶者では過大利得である場合に抑うつが高いこと (Ybema et al., 2001) が示されている。つまり、がん患者と配偶者の双方向の関係に関しても、「与えているサポートと受けているサポートの認知的バランス」が良い場合に、最も心理的適応が良好という均衡理論が当てはまることが示されている (e.g., Douglass, 1997)。

がん患者と配偶者を対象とした近年のサポート研究では、どのように配偶者の行動が患者の心理的適応に影響を及ぼすのかといったメカニズムが注目され、様々な媒介変数を用いて、配偶者の行動が患者の心理的適応に及ぼす影響について説明しようとする試みがなされている。例えば、配偶者からのサポートが患者の心理的適応に及ぼす影響を媒介する変数として検討されているのは、患者の自尊心 (Symister & Friend, 2003)、ストレスサーが脅威であるという認知、肯定的再評価という対処方略 (Manne & Zautra, 1989; Brady & Helgeson, 1999) や問題解決型の対処方略 (Manne, Pape, Taylor, & Dougherty, 1999) である。配偶者からのサポートは、これらを介することによって、より患者の心理的適応に肯定的な影響を及ぼすことが示されている。また、配偶者からのサポートは、患者の侵入的な思考が及ぼす心理的適応への悪影響を緩衝することも示されている (Devine, Parker, Fouladi, & Cohen, 2003; Lewis, Manne, DuHamel, Vickburg, Bovbjerg, Currie, Winkel, & Redd, 2001)。

3. がん患者と配偶者の二者関係におけるサポート研究の今後の課題

以上のように概観すると、二者関係におけるサポート研究では、がん患者の心理的適応において配偶者との関係が非常に重要であることがわかる。また、配偶者から得られる適切なサポートは、患者の自尊心、または、問題に対する積極的な対処を促すことによって、患者の心理的

適応に良い影響を及ぼしていることが明らかとなった。本節では、これらのがん患者と配偶者の二者関係におけるサポート研究のもつ限界と課題について述べる。

ソーシャルサポート研究は本来、同じようなストレスフルな状況にあっても心身の健康を害する人もいれば、健康を保つことのできる人もいるという個人差を説明することや、人と人との関係が心身に及ぼす影響を解明することから端を発している。この点を考慮すると、がん患者と配偶者の二者間におけるサポート研究で扱うべき命題は、がんであることが患者の夫婦関係にどのような影響を与えるのか、心理的に適応していく過程の夫婦関係におけるサポート行為とはどのような実態であるか、また夫婦関係におけるサポートは両者の心理的適応にどのような影響を及ぼしているのかを明らかにすることと言えよう。しかし、がん患者と配偶者を対象とした多くのソーシャルサポート研究は、二者関係のサポートに関連する側面を、それ以外の日常的な関係性から抜き出して、独立なものとして扱ってきた。がん罹患することやそこから派生する問題をストレスサーと捉えるならば、ストレスサーががん患者と配偶者のそれまでの関係に何らかの影響を及ぼし、その変化した関係性の中でサポートの授受が行われると考えることが自然である。したがって、夫婦のどちらかががんに罹患した夫婦の日常的な関係性の上に、サポートを位置づけ、研究を組み立てていくことが今後の課題と言える。

そのための一つの方法として、研究の中で扱われてきた狭義のサポートの定義を、拡張して捉えることが挙げられる。従来サポートとは、ストレス低減を目的とした対人行動であり、社会包絡そのものや、日常的な対人相互作用は、厳密には含まないと定義されていた(橋本, 2005)。つまり、サポートの送り手が受け手のストレスを低減させることを目的として行った行為のみが研究対象であったと言える。しかし、実際の夫婦関係は広範な相互作用の中で成り立っており、何気ない行為の集合体が夫婦関係とも言える。そのため、サポートの送り手が受け手のためにとる行動に限らず、夫婦関係の日常的な対人相互作用をより広い視点で捉え、その上で、患者のストレス低減に繋がる、あるいはサポートとなる配偶者の行動について検討することで、より現象に即した示唆が得られるのではないかと考えられる。

また、サポートの受け手である患者のみの視点からだけではなく、サポートの送り手の視点も考慮することが重要である。例えば、Feltwell & Rees (2004) は、配偶者が患者の疾患に関する情報を回避することは、懸念や心配を低減させるための配偶者自身の対処行動であることを示している。また、Thompson, Galbraith, Thomas, Swan, & Vrungos (2002) の研究では、患者にとって望ましくない過剰に保護的な配偶者の態度は、配偶者自身の不安が高い、疾患に対する対処可能感が低い、ケア提供の責任を果たせていないという罪悪感が強いなど、配偶者側の問題から引き起こされていることを示している。つまり、患者がどのようなサポートを配偶者から得ていると認知しているか、その認知が患者の心理的適応にどのような影響を及ぼすかといった限られた側面だけでなく、患者と配偶者の間における日常的な関係を、患者は患者の視点で認知しており、また配偶者は配偶者の視点で認知していることを踏まえた上で、二者関係におけるサポートを位置づけて研究していくことが重要と考える。

そして、がん患者と配偶者の二者関係において最も問題であると考えられるのが、配偶者が患者を援助する目的で行う言動が、意に反して患者にとっては望ましくない効果をもたらす場合である。社会心理学的研究では、心身の健康に否定的な影響を及ぼす対人関係として、特定の親しい他者との葛藤的社会的相互作用 (conflictual social interactions: Fleishman, Sherbourne, Crystal, Collins, Marshall, Kelly, Bozzette, Shapiro, & Hays, 2000)、問題的社

会的相互作用 (problematic social interactions : Brenner, Norvell, & Limacher, 1989)、否定的社会的相互作用 (negative social interactions : Ruktis, Koeske, & Tereshko, 1995) と様々な概念によって検討されてきた。そして、否定的な影響を及ぼす対人関係は、肯定的な影響を及ぼす対人関係がないことよりも、心理的適応に悪い影響を及ぼすことが示されている (Pistrang & Barker, 1995)。しかし送り手の意に反して、受け手に否定的な影響を及ぼすサポート行動に関しては、従来ほとんど検討されておらず、今後の検討が望まれている (Kuijer, Ybema, Buunk, De-Jong, Thijsboer, & Sanderman, 2000; 浦, 2000; 塩崎, 2005)。このような配偶者の行動が、どのように患者の心理的適応に悪い影響を及ぼしているのかといったメカニズムを解明することで、より具体的な示唆を得る事ができると考える。

がん患者や配偶者の二者関係におけるサポート研究の近年の流れを汲むと、他者との関係がどのように心理的適応に影響を及ぼすのか、またその影響の媒介変数、交絡変数はどのようなものかを検討し、現象を的確に説明していくことが今後求められる。例えば、受け手側や送り手側の神経症傾向、他者依存性などの性格特性や心理的状态を変数として取り入れることも、サポートが心理的適応に及ぼす影響を説明する際に有用と考えられる。また、そのような検討を、横断的にのみ行うのではなく、縦断的に行うことによって、がん患者と配偶者の心理的適応と二者関係の関連がより明確に示されるであろう。慢性的となったストレスに対しては、ソーシャルサポートの役割が時間の経過に伴って、調整的な役割から仲介的な役割に変化するという指摘 (Lepore, Evans, & Schneider, 1991) もあり、今後の検討が望まれる。先行研究による欧米の研究知見を十分参考にし、文化差に配慮した我が国独自の検討を行い、がん患者と配偶者の心理的適応における関係性の役割について、理解を深めていくことが重要と言える。

4. おわりに

多くの研究によって、患者の心理的適応に関して他者との関係性が重要であることが示されてきた。本論ではその中でも、特に影響が強いとされる配偶者に絞って、どのようなサポートがどのように患者の心理的適応に影響を及ぼすのかについて概観した。これらの結果から、配偶者からのサポートの少ない患者に対して細やかな支援を行うこと、関係の良好でない夫婦には関係性に着目した介入を行うことが、配偶者との関係性という面から患者の心理的適応を促すために必要であると提言されている。しかし、他者との関係性に対する認知やその影響は、個人差の強いものである。また、同じサポートであっても、誰からいつどのようになされたサポートであるかによって、受け手の認知が個人内でも変化することが推測される。このような力動的な二者関係を研究として扱うには、多くの限界が存在する。その限界を踏まえた上で、がん患者と配偶者の二者関係を改善させる、あるいは向上させることに寄与する知見が得られることが期待されている。

そのためには、研究の枠組みをがん患者や配偶者に当てはめて押し付けの議論を行うのではなく、実際のがん患者や家族に生じている問題や、その問題が維持される原因について細やかな視座から、その現象の説明を試みることで、少しでも臨床現場で応用可能な研究を行うことができると思う。がん患者と配偶者に役立つ情報を提供するためには、個々のニーズに応えられるだけのより詳細で具体的な知見を示すか、あるいは逆に、メカニズムを解明するような知見を示していくことが重要である。二者関係を平面的に扱うのではなく、その問題が生じやすくなる原因、その問題が解決されにくい原因、その問題が維持される原因について、がん患

者と配偶者の両者の視点を共に検討していくことが、がん患者と配偶者を対象としたソーシャルサポート研究の1つの方向性と言える。

追記

本論は、著者が2005年度大阪大学大学院人間科学研究科に提出した博士論文の一部を抜粋し、加筆修正したものである。

引用文献

- Alferi, S. M., Carver, C. S., Antoni, M. H., Weiss, S., & Duran, R. E. 2001 An exploratory study of social support, distress, and life disruption among low-income hispanic women under treatment for early stage breast cancer. *Health Psychology, 20*, 41-46.
- Ashing, G. K. 1999 Quality of life and psychosocial outcomes in long-term survivors of breast cancer : A focus on African-American women. *Journal of Psychosocial Oncology, 17*, 47-62.
- Baider, L. & de-Nour, A. K. 1999 Psychological distress of cancer couples: A leveling effect. *New Trends in Experimental and Clinical Psychiatry, 15*, 197-203.
- Bloom, J.R., Stewart, S.L., Johnson, M., Banks, P., & Fobair, P. 2001 Sources of support and the physical and mental well-being of young women with breast cancer. *Social Science and Medicine, 53*, 1513-1524.
- Brady, S. S. & Helgeson, V. S. 1999 Social support and adjustment to recurrence of breast cancer. *Journal of Psychological Oncology, 17*, 37-55.
- Brenner, G. F., Norvell, N. K., & Limacher, M. 1989 Supportive and problematic social interactions: a social network analysis. *American Journal of Community Psychology, 17*, 831-836.
- Dakof, G. A. & Taylor, S. E. 1990 Victim's perceptions of social support: What is helpful from whom? *Journal of Personality and Social Psychology, 58*, 80-89.
- Devine, D., Parker, P. A., Fouladi, R. T., & Cohen, L. 2003 The association between social support, intrusive thought, avoidance, and adjustment following as experimental cancer treatment. *Psycho-Oncology, 12*, 453-462.
- Douglass, L. G. 1997 Reciprocal support in the context of cancer: Perspectives of the patient and spouse. *Oncology Nursing Forum, 24*, 1529-1536.
- Feltwell, A. K. & Rees, C. E. 2004 The information-seeking behaviors of partners of men with prostate cancer: a qualitative pilot study. *Patient Education and Counseling, 54*, 179-185.
- Fleishman, J. A., Sherbourne, C. D., Crystal, S., Collins, R. L., Marshall, G. N., Kelly, M., Bozzette, S. A., Shapiro, M. F., & Hays, R. D. 2000 Coping, conflictual social interaction, social support, and mood among HIV-infected persons. *American Journal of Community Psychology, 28*, 421-453.
- 深田博己 2002 コミュニケーション心理学—心理学的コミュニケーション論への招待— 北大

路書房, 168-171.

- Hann, D., Baker, F., Denniston, M., Gesme, D., Reding, D., Flynn, T., Kennedy, J., & Kieltyka, R. L. 2002 The influence of social support on depressive symptoms in cancer patients age and gender difference. *Journal of Psychosomatic Research*, 52, 279-283.
- Hann, D., Winter, K., & Jacobson, P. 1999 Measurement of depressive symptoms in cancer patients: evaluation of the Center for Epidemiological Studies Depression Scale (CES-D). *Journal of Psychosomatic Research*, 46, 437-443.
- 橋本剛 2005 ストレスと対人関係 ナカニシヤ出版
- Hegtvædt, K. A. 1990 The effects of relationship structure on emotional responses to inequity. *Social Psychology Quarterly*, 53, 214-228.
- Hoskins, C. N. 1995 Patterns of adjustment among women with breast cancer and their partners. *Psychological Reports*, 77, 1017-1018.
- Hoskins, C. N., Baker, S., Sherman, D., & Bohlander, J. 1996 Social support and patterns of adjustment to breast cancer. *Scholarly Inquiry for Nursing Practice*, 10, 99-123.
- Key, J. D., Marsh, L. D., Carter, C. L., Malcolm, R. J., & Sinha, D. 2004 Family-focused smoking cessation : Enhanced efficacy by the addition of partner support and group therapy. *Substance Abuse*, 25, 37-41.
- Kuijter, R. G., Ybema, J. F., Buunk, B. P., De-Jong, G. M., Thijsboer, F., & Sanderman, R. 2000 Active engagement, protective buffering, and overprotection: three ways of giving support by intimate partners of patients with cancer. *Journal of Social and Clinical Psychology*, 19, 256-275.
- Lepore, S. J., Evans, G. W., & Schneider, M. L. 1991 Dynamic role of social support in the link between chronic stress and psychological distress. *Journal of Personality and Social Psychology*, 61, 899-909.
- Levy, S. M., Herberman, R. B., Whiteside, T., Sanzo, K., Lee, J., & Kirkwood, J. 1990 Perceived social support and tumor estrogen/ progesterone receptor status as predictors of natural killer cell activity in breast cancer patients. *Psychosomatic Medicine*, 52, 73-85.
- Lewis, J. A., Manne, S. L., DuHamel, K. N., Vickburg, S. M. J., Bovbjerg, D. H., Currie, V., Winkel, G., & Redd, W. H. 2001 Social support, intrusive thought, and quality of life in breast cancer survivors. *Journal of Behavioral Medicine*, 24, 231-245.
- Manne, S., Audrain, J., Schwartz, M., Main, D., Finch, C., & Lerman, C. 2004a Associations between relationship support and psychological reactions of participants and partners to BRCA1 and BRCA2 testing in a clinic based sample. *Annals of Behavioral Medicine*, 28, 211-225.
- Manne, S., Pape, S. J., & Fang, C. 1998 Marital satisfaction, functional impairment, and distress among cancer patients. In A. Stanton (Chair), Intimate relationships after cancer diagnosis. Symposium conducted at the 106th Annual Sessions of the American Psychological Association, Los Angeles.

- Manne, S. L., Pape, S. J., Taylor, K. L., & Dougherty, J. 1999 Spouse support, coping, and mood among individuals with cancer. *Annals of Behavioral Medicine*, 21, 111-121.
- Manne, S., Sherman, M., Ross, S., Ostroff, J., Heyman, R. E., & Fox, K. 2004b Couples' support-related communication, psychological distress, and relationship satisfaction among women with early stage breast cancer. *Journal of consulting and clinical psychology*, 72, 660-670.
- Manne, S. L., Taylor, K. L., Dougherty, J., & Kemeny, N. 1997 Supportive and negative responses in the partner relationship: Their association with psychological adjustment among individuals with cancer. *Journal of Behavioral Medicine*, 20, 101-125.
- Manne, S. L. & Zautra, A. J. 1989 Spouse criticism and support: Their association with coping and psychological adjustment among women with rheumatoid arthritis. *Journal of Personality and Social Psychology*, 56, 608-617.
- 宮下美香 2004 乳がん患者によって知覚されたソーシャル・サポートに関する研究 看護技術, 50, 242-248.
- Neuling, S. & Winefield, H. 1988 Social support and recovery after surgery for breast cancer: Frequency and correlates of supportive behaviors by family, friend, and surgeon. *Social Science and Medicine*, 27, 385-392.
- Northouse, L. L. 1988 Social support in patients' and husbands' adjustment to breast cancer. *Nursing Research*, 37, 91-95.
- Northouse, L. L., Dorris, G., & Charron, M. C. 1995 Factors affecting couples' adjustment to recurrent breast cancer. *Social Science and Medicine*, 41, 69-76.
- Northouse, L. L., Moods, D., Templin, T., Mellon, S., & George, T. 2000 Couples' patterns of adjustment to colon cancer. *Social Science and Medicine*, 50, 271-284.
- Pierce, G. R., Sarason, B. R., & Sarason, I. G. 1992 General and specific expectations and stress as predictors of perceived supportiveness: An experimental study. *Journal of Personality and Social Psychology*, 63, 297-307.
- Pistrang, N. & Barker, C. 1995 The relationship in psychological response to breast cancer. *Social Science and Medicine*, 40, 789-797.
- Primomo, J., Yates, B. C., & Woods, N. F. 1990 Social support for women during chronic illness: The relationship among sources and types to adjustment. *Research in nursing and health*, 13, 153-161.
- Rauktis, M. E., Koeske, G. F., & Tereshko, O. 1995 Negative social interactions, distress, and depression among those caring for a seriously and persistently mentally ill relative. *American Journal of Community Psychology*, 23, 279-299.
- 塩崎麻里子 2005 がん患者の心理的適応にネガティブな影響を及ぼす配偶者の行為とそのメカニズム 生老病死の行動科学, 10, 139-146.
- Smith, E. M., Redman, R., Burns, T. L., & Sagert, K. M. 1985 Perceptions of social support among patients with recently diagnosed breast, endometrial, and ovarian cancer: An exploratory study. *Journal of Psychosocial Oncology*, 3, 65-81.
- Symister, P. & Friend, R. 2003 The influence of social support and problematic support

- on optimism and depression in chronic illness: A prospective study evaluating self-esteem as a mediator. *Health Psychology, 22*, 123-129.
- Thompson, S. C., Galbraith, M., Thomas, C., Swan, J., & Vrungos, S. 2002 Caregiver of stroke patient family members: behavioral and attitudinal indicators of overprotective care. *Psychology and Health, 17*, 297-312.
- 浦光博 2000 対人関係の光と影 高木修 (監) 西川正之 (編) 援助とサポートの社会心理学 北大路書房
- Wakefield, M., Olver, I., Whitford, H., & Rosenfeld, E. 2004 Motivational Interviewing as a smoking cessation intervention for patients with cancer. *Nursing Research, 53*, 396-405.
- Ybema, J. F., Kuijer, R. C., Buunk, B. P., DeJong, G. M., & Sanderman, R. 2001 Depression and perceptions of inequity among couples facing cancer. *Personality and Social Psychology Bulletin, 27*, 3-13.